

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007～2009 年度  
 課題番号：19320017  
 研究課題名（和文） 戦争・経済・メディアからみるグローバル世界秩序の複合的研究  
 研究課題名（英文） Complex Study on Global World Order in Relation to War, Economy and Media  
 研究代表者  
 西谷修（Nishitani Osamu）  
 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
 研究者番号：20189286

研究成果の概要（和文）：21世紀グローバル世界秩序の構造的要素である戦争・経済・メディアの不可分の様相を歴史的・思想的に解明し、前半部を「ドキュメント沖縄暴力論」（B5、171ページ）として、また後半部を「グローバル・クライシスと「経済」の再審」（B5、226ページ）としてまとめた。

研究成果の概要（英文）：We have explored several phases of global world order in the Twenty-first Century where the factors of war, economy and media are closely connected, both historically and theoretically. Finally we have completed proceedings of 'Okinawa Boryoku-Ron (theories of violence on Okinawa) for the first half and 'Global Crisis and the Inspection of Economy' for the second half, respectively.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2008年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
年度			
総計	12,000,000	3,600,000	15,600,000

研究分野：思想史

科研費の分科・細目：

キーワード：戦争、経済思想、メディア、グローバル世界秩序、沖縄、暴力論、金融危機

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化に関する研究は多くあるが、そこには歴史的・批評的観点を欠いて現状を記述・分析するものがほとんどで、グローバル化世界の生み出す諸問題を適切に記述する観点が見受けられなかった。テロとの戦争、グローバル市場の功罪、メディアの役割等、これまで研究代表者などが注目し研究してきた成果を踏まえて、グローバル世界秩序の

複合的研究をする必要があった。

## 2. 研究の目的

グローバル世界秩序の形成において、市場一元化に見られる経済的局面と、テロとの戦争にみられる世界秩序の特質、そしてそれを全世界に投影するメディアの役割、その三点に着目して、政治の後退が語られるグローバル・ガバナンスの様相、グローバル秩序の

安全保障としての非対称的戦争レジーム、それをグローバル規模で演出するメディア装置の複合的関係を、自由主義経済思想の展開、戦争とメディアとの現代的関係、といった歴史的・思想的コンテクストのなかで解明する。

### 3. 研究の方法

上記の理論的目的を、それぞれ主たる担当者が分担して担い（経済思想は中山、戦争は西谷、メディアは石田、政治の変容を土佐）、それを注目される諸地域の地域研究と結びつけて（東アジアは米谷、中東は酒井、アフリカは真島）、複合的な研究を遂行する。また、フランスのナント高等研究所やアルジャジーラ・メディア研究所との連携もはかる。

具体的な段取りとしては、小規模の研究会、研究調査を重ね、節目の時期に国際会議を開催して、公開で討議を行なうことで、同時に研究成果の社会的還元をも図る。

### 4. 研究成果

折からのアメリカ発世界金融危機（2008年秋）の勃発もあり、また米オバマ政権の成立やイラク・アフガニスタン戦争の方向転換もあって、われわれの研究は一段とアクチュアルなものになり、その意義が研究期間にそのまま証明されることにもなった。一年目には、研究課題を「グローバル世界のエッジ」としての日本の沖縄に集約的に見て、戦争とメディアの問題をまとめる『沖縄・暴力論』を刊行し、さらにその後の議論の成果を期間内に記録誌『グローバル・クライシスと「経済」の再審』（B5 226 ページ）としてまとめあげた。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

西谷修、政治が回復するとき、世界、有、797、2009、pp.41-47

西谷修、経済学の倒錯、現代思想、有、37-10、2009、pp.144-157

西谷修、アメリカ、異形の制度空間①～④、世界、有、784-787、2008-2009、pp.73-81、208-218、62-70、259-270

西谷修、市場経済というフィクション、世界、有、771、pp.105-113

中山智香子：リベラル・インターナショナルイズム批判：ポラニーとシュンペーター、平井俊顕編『市場経済とは何か』（上智大学出版会）、2007、pp.161-181

Chikako Nakayama/ Giovanni Pavanelli, A lifelong Friendship: The Correspondence between Oskar Morgenstern and Luigi Einaudi, Storia del Pensiero Economico,

2008, no.1, pp.95- 120.

米谷匡史：軋みと閃光、世界、有、775、2008、pp.203-205

真島一郎：ウフェ・ボワニの統治倫理に関する覚書、佐藤章編『統治者と国家—アフリカの個人支配再考』、2007、277-345

土佐弘之：グローバルな統治性、高桑和巳編『フーコーの後で』（慶応大学出版会）、2007、pp.119-153

Tosa Hiroyuki, Anarchical Governance: Neoliberal Governmentality in resonance with the State of Exception, *International Political Sociology*, 有、3、2009, pp.414-430

石田英敬：テレビ記号論とは何か、日本記号学会『テレビジョン解体』（慶応大学出版会）、2007、pp.2-11

〔学会発表〕（計 2 件）

西谷修・中山智香子・M.Canjani・C.Thomasberger(4名):K・ポラニーの現代性、社会思想史学会、2008年10月18日、慶応大学

中山智香子：カール・ポラニーの「社会」概念、社会思想史学会、2009年10月31日、神戸大学

〔図書〕（計 4 件）

西谷修・仲里効編、未来社、『沖縄・暴力論』、2008、263

中山智香子、勁草書房、『経済戦争の論理』、2010、308

西谷修、岩波書店、『理性の探求』、2009、200

酒井啓子、岩波書店、イラクは食べる、2008、246

### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

西谷修 (Nishitani Osamu)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：20189286

#### (2) 研究分担者

中山智香子 (Nakayama Chikako)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：10274680

米谷匡史 (Yonetani Masafumi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：80251312

真島一郎 (Majima Ichiro)  
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授  
研究者番号：10251563

酒井啓子 (Sakai Keiko)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：40401442

(3) 連携研究者

石田英敬 (Ishida Hidetaka)  
東京大学  
研究者番号：70212892

土佐弘之 (Tosa Hiroyuki)  
神戸大学  
研究者番号：70180148